城の崎にて

志賀直哉

構造理解 次の空欄にあてはまる語句を本文からそれぞれ抜き出しなさい。

第一段 (一九六・1～一九八・7)	第二段 (一九八・8～二〇〇・9)	第三段 (二〇〇・10～二〇三・6)	第四段 (二〇三・7～二〇六・2)	第五段 (二〇六・3～4)
電車に跳ねられてけがをしたその〔①　　〕に一人で城崎温泉に来た。寂しい秋の山峡を散歩しながら、けがのことをよく考えた。死ぬのは〔②　　〕ことだが、一方で何か死に対する〔③　　〕が起こっていた。	二階の部屋の欄干から蜂の活動を見ていたが、ある朝一匹の蜂が死んでいるのを見つけた。忙しく立ち働いている蜂と比べるといかにも死んだものという感じを与え、いかにも〔④　　〕で寂しかった。	散歩に出て首に魚串を刺し通されたねずみが助かろうと必死に逃げ回っているのを見て、寂しい〔⑤　　〕気持ちになった。静かさの前に〔⑥　　〕があるのは恐ろしいことだ。静かな死を願うことと実際の場面は両方が本当で、どちらになっても、〔⑦　　〕ことだと思った。	小川に沿って歩いていると風もないのに一つの葉だけがヒラヒラ動くのを見て、不思議に思うと同時に多少〔⑧　　〕もした。〔⑨　　〕当たり不意の死を遂げた。かわいそうにと思うと同時に〔⑩　　〕の寂しさを感じた。生き物たちの死と生きている自分とを考え合わせると、生きていることと死んでいることは〔⑪　　〕ではなかった。	〔⑫　　〕週間いて城崎を去った。脊椎カリエスにはならずに済んだ。

語句理解 次の各問いにそれぞれ答えなさい。

1 傍線部のカタカナは漢字に直し、漢字はその読みをひらがなで書きなさい。

(1) 先生からゲキレイされる。

(2) 窓枠にタれ下がるつらら。

(3) サイゴをみとる。

(4) 頂上に到達する。

(5) 汗が顔から滴る。

2 傍線部の語句の本文中の意味として適当なものはどれか。次の中からそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。

(1) あひるは頓狂な顔をして（二〇一・12）

ア 驚き、どうしていいのか分からず、戸惑った顔。
イ 強く興味がひかれ、それを気にかけている顔。
ウ 慌てて、どこか調子はずれの間の抜けた顔。
エ 突然の出来事に自分を見失っている顔。

(2) この傷が致命的のものかどうか（二〇二・9）

ア 重大な災難をもたらすことになるもの。
イ 生命の危険に直接つながるもの。
ウ 重い病気を引き起こす可能性があるもの。
エ 運命のように決められているもの。

内容理解 次の各問いにそれぞれ答えなさい。

◇第一段（一九六・1〜一九八・7）

1 「山の裾を回っている」（一九七・1）の主語は何か。本文から抜き出しなさい。

2 「寂しい考え」（一九七・5）の具体的な内容は何か。次の空欄にあてはまる語句を本文からそれぞれ抜き出して説明文を完成させなさい。

電車に跳ねられた事故で、一つ間違えば自分は［A］顔をして、顔や背中の傷もそのままで墓の中にいただろう。その脇には何の交渉もない［B］があるという考え。

3 「それが本当にいつか知れないような気がしてきた。」（一九八・2〜3）とあるが、この部分の「いつか」は、前に述べられている「いつか」（一九七・16）と比べてどのような違いがあるか。次の中から適当なものを**一つ**選んで記号で答えなさい。

ア あきらめの混じった「いつか」と違って、恐れが込められた「いつか」である。

イ 遠い未来の「いつか」と違って、数年後に訪れる「いつか」である。

ウ 不特定の「いつか」と違って、運命で決められた「いつか」である。

エ 漠然とした「いつか」と違って、切迫感のある「いつか」である。

4 「実は自分もそういうふうに危うかった出来事を感じたかった。」（一九八・5〜6）とあるが、具体的にはどのようなことか。次の空欄にあてはまる語句を本文から**十二字以内**でそれぞれ抜き出して説明文を完成させなさい。

電車に跳ね飛ばされる事故に遭ったのに死なずに助かったのは、自分にはまだ［A］があるために、［B］からだと思いたかったということ。

◇第二段（一九八・8〜二〇〇・9）

5 「他の蜂は一向に冷淡だった。」（一九九・1）と、蜂の様子を人間に例えた表現をすることでどのような様子を表しているか。次の中から適当なものを**一つ**選んで記号で答えなさい。

ア 近くで仲間の蜂が死んでいるのに、それを気に留めることもなく忙しく動き回る様子。

イ 巣を出入りすることに夢中で、巣のそばに一匹の蜂が死んでいることに全く気づかない様子。

ウ 仲間の死を宿命として受け入れ、現在も精一杯生きている様子。

エ 死んだ蜂の姿はいかにも静かで、生きている他の蜂の世界からはかけ離れている孤独な様子。

6 一九八ページ16行目から一九九ページ15行目の部分で「いかにも」が多用されているが、本文におけるこの語について、次の中から適当なものを**一つ**選んで記号で答えなさい。

ア 「まるでそのようにみえる」の意味で、他のものにたとえることで物事のありさまを具体的に表す。

イ 「まさにそうだというふうに」の意味で、物事の認定がぴったり一致しているということを表す。

ウ 「どのようにしてでも」の意味で、強い思いを相手に伝えるために以下に述べることを強調する。

エ 「どのようであるか」の意味で、物事の成り行きや結果がどんな状態にあるかを表す。

[ ]

7 「日暮れ、冷たい瓦の上に…寂しかった。しかし、それはいかにも静かだった。」（一九九・7〜8）について、次の空欄A・C・Dにあてはまる語句を後ろの語群からそれぞれ選んで記号で答え、Bにあてはまる語句を本文から抜き出して説明文を完成させなさい。

「寂しかった」は生きて動いているものと比べたときに感じる［ A ］への予感から生まれた思いである。一方、「静かだった」は「［ B ］」という事実から、死の不変性・［ C ］を時間の連続のなかで捉えたときに生じる［ D ］思いである。

ア 自己不安　イ 自己嫌悪　ウ 自己消失　エ 永遠性
オ 完全性　カ 普遍性　キ 満ち足りた安心の
ク 穏やかで平安な

◇第三段（二〇〇・10〜二〇三・6）

8 「動作の表情に、それが一生懸命であることがよく分かった。」（二〇一・7〜8）とは、どのようなことか。次の空欄に**四十字程度**で適当な語句を書き入れて説明文を完成させなさい。

ねずみが［　　］ことが読みとれたということ。

40

9 「自分は寂しい嫌な気持ちになった。」（二〇一・15）のはなぜか。次の中から適当なものを**一つ**選んで記号で答えなさい。

ア 静かに死んでいくことができずに暴れ騒ぎ回っているねずみの姿に反感をもったから。

イ 殺されまいとして逃げ回るねずみの姿に自分を重ねて、これから先の人生の苦難を思いやったから。

ウ 死に至るまではなんとか生きようともがき続けるねずみの生き方を素直に受け入れられないから。

エ 死ぬ運命にありながらも、それに抵抗して生きるための努力をするねずみのしぶとさに恐怖を感じたから。

[ ]

◇第四・五段（二〇三・7〜二〇六・4）

10 「両方」（二〇三・4）とは、何と何を指しているか。次の中から適当なものを**一つ**選んで記号で答えなさい。

ア 「『あるがまま』と「気分で願うところ」
イ 「自分」と「ねずみ」
ウ 「気分で願うところ」と「実際」
エ 「死の恐怖」と「気分」

11 「生き物の寂しさをいっしょに感じた。」（二〇五・8〜9）とあるが、「生き物の寂しさ」とは、どのようなことか。次の中から適当なものを**一つ**選んで記号で答えなさい。

ア 人間を含めた生き物全てが、偶然によってその生死を支配されているということ。
イ 人間を含めた生き物全てが、死に対して何らかの不安や恐怖を抱いているということ。
ウ いもりなどの小動物は人間と違い、ほんのささいな出来事で不意に死んでしまうということ。
エ いもりなどの小動物は、人間のような大きい存在によって簡単に生死を左右されてしまうということ。

12 「しかし実際喜びの感じは湧き上がってはこなかった。」（二〇五・14〜15）のはなぜか。本文中の語句を使って**五十字程度**で説明しなさい。

50

主題理解 本文について述べた次の文の中から、**あてはまらないもの**を**一つ**選んで記号で答えなさい。

ア 冒頭の二段落にある文は全て主語が省略され、語り手、作者、主人公を同一人物として設定する私小説特有の表現となっている。
イ 最終段落にある「それから、もう三年以上になる。」という記述から、この作品は回想として書かれていることがわかる。
ウ いもりが死ぬ場面は、意図せずに殺してしまった「自分」の罪の思いが接続語を一切省いた短い文の連続で描写され、読み手に共感を与える。
エ 「他の蜂は一向に冷淡だった。」、「生き物の寂しさをいっしょに感じた。」などの表現は、作者と対象の小動物とが、心情的に融合・同化していることを感じさせる。
オ ねずみの動騒と自分とを結びつけて考えている場面などに見られる「自分に」「自分は」「自分の」の多用から作者の自我強調の意識が読みとれる。

コラム

志賀直哉が電車に接触した事故は大正二年八月十五日の夜に起きました。『出来事』という子供が電車にひかれそうになって助かったという小説の原稿を書き終えて、友人の里見弴と芝浦の埋め立て地に散歩に出ました。道が行き止まりになっていたので、線路の土手を登って反対側に降りようとしたが降りられず、そのまま線路沿いに歩いていたところ、後ろから来た電車に跳ねられたというのです。里見は志賀の後ろを歩いていたのですが、少し線路から離れていたために跳ね飛ばされずに済んだそうです。